

## 2015年3月期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

### 【2015年3月期の業績について】

Q：第4四半期に金融ITソリューションセグメントで発生した不採算案件は、どのような案件か？また、今後の見通しについて教えてほしい。

A：第1四半期に追加コストを計上した案件のひとつである。第1四半期でプロジェクト全体を見直したが、その後の進捗を精査した結果、再度、コストとスケジュールの見直しをせざるを得なくなった。2016年3月期第1四半期内にカットオーバーし、その後数ヶ月間のフォローを予定している。

Q：金融ITソリューションセグメントの受注残高の増加要因は？

A：今期連結子会社化いただいたこう証券ビジネスの影響が大きい。

### 【2016年3月期通期業績予想について】

Q：証券業で大型の製品販売売上を見込んでいるとのことだが、どのような案件か？

A：既存顧客向けの製品販売である。

Q：米国 Brierly & Partners 社（以下、ブライアリー社）買収の背景は？今後どのような展開が見込まれるか？

A：これまでコンサルティングやシステム構築で顧客のマーケティングを支援してきたが、今後この分野をさらに強化する施策を検討していた。デジタルマーケティング分野に強みがあり北米を中心に優良顧客を数多くもつブライアリー社とは、相互の強みを生かしたサービス提供が可能だと判断した。

Q：ブライアリー社買収による影響は業績予想に織り込まれているか？のれんの額や償却方法についても教えてほしい。

A：2016年3月期の業績予想に、ブライアリー社の影響は織り込まれている。のれんの金額や償却期間については開示していないが、当初は、利益面の業績寄与はさほど大きくないと考えている。事業拡大や両社のシナジー効果による今後の収益性改善を目指していく。

Q：業績予想の前提として、2015年3月期に発生した不採算案件の改善効果と将来に向けた成長投資をどの程度見込んでいるか？

A：2016年3月期は不採算案件の発生を抑止していくことを最重要命題として取り組んでいく。2015年3月期第1四半期後に強化したプロジェクト監理や提案内容精査をさらに推進し、今後の不採算案件の発生防止に努めていく。2015年3月期第1四半期以降は、新規での大規模な不採算案件の発生は抑制できている。成長投資については、従来の考え方通り一定の比率で取り組んでいきたい。

・本資料は、2015年3月期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

Q：株主還元についての方針を教えてください。

A：配当については、連結配当性向として 35%を目安に、安定的な配当をおこなう方針である。資本を成長投資に有効に活用するとともに効率性を重視した資本政策を検討していく。

【「Vision 2022」について】

Q：現時点の海外事業の売上高はどの程度か？また、「Vision 2022」で目指す海外事業の売上高 1,000 億円に向けた戦略・施策を教えてください。

A：2016年3月期時点で海外関連事業売上高比率は 5%を超えるとみているが、シンボリックな目標として掲げた 1,000 億円は、これまでの取り組みの延長では達成できない。日系大手金融機関のグローバル展開の支援や、外部成長の活用など、具体的な事業計画は今後 1 年間で検討していく。

Q：自己資本当期純利益率（ROE）の目標値について教えてください。

A：経営指標として ROE を重視し、10%以上を維持してきたが、2023 年 3 月期に向けて、もう一段上の 14%を目指していく。

以上